

(別紙)「宝塚市地域福祉計画(第2期 改訂版)(案)」に対するパブリック・コメント手続以外での修正内容一覧表

\* パブリック・コメント実施後に、以下のとおり修正しました。

No.	頁	行	該当箇所	修正前	修正後	意見区分	修正理由
1	計画全般に関すること		—	—	本編に追加し、資料編を追加しています。	1 職員 ② 所管課 3 その他 ( )	内容補足のため
2			—	—	文章全般について、「障害」「障碍(がい)」の字を使用しています。  ※法定計画の名称である障害者・障害児福祉計画等については除く。	1 職員 ② 所管課 3 その他 ( )	内容の見直しを行ったため。
3	8		第2章 1. 人口と世帯等の状況 1) 人口と世帯数の推移 (1段落目)	総人口は平成27年で224,903人と、年々増加しています。	総人口は、平成27年で224,903人と、平成22年から平成27年にかけてわずかに減少しています。	1 職員 ② 所管課 3 その他 ( )	内容の見直しを行ったため。
4	15		第2章 2. 地域における団体等の活動の状況 4) 子ども会 (統計グラフ 下部の説明)	資料:市調べ	資料:市調べ ただし、宝塚市子ども会連絡協議会加入の単位子ども会についての情報をもとにしており、市内で活動する子ども会の全団体数等を表したものではありません。	1 職員 ② 所管課 3 その他 ( )	内容の見直しを行ったため。
5	28		第2章 7. 専門職ヒアリングにおける意見 (1)分野内の課題解決プロセスや分野横断的な事案への関わり方等の現状と課題 ■課題共有は可能だが、課題解決に向けた具体的な取組を展開することが難しい。 (3段落目)	・委託相談支援事業所連絡会では、課題をどのように分析していくか、課題をどのように見てもらい、解決の必要性を認識してもらうかに入ったところである。	・委託相談支援事業所連絡会では、課題をどのように分析していくか、課題をどのように見てもらい、解決の必要性を認識してもらうかという段階に入ったところである。	1 職員 ② 所管課 3 その他 ( )	誤字修正のため。

No.	頁	行	該当箇所	修正前	修正後	意見区分	修正理由
6	28		第2章 7. 専門職ヒアリングにおける意見 (1)分野内の課題解決プロセスや分野横断的な事案への関わり方等の現状と課題 ■行政との連携、行政による全体調整が不十分。 (2段落目)	・自立支援協議会事務局会議については、自立支援協議会部会の進捗報告の場となっており、課題共有や解決策に関する意見集約・検討までできていない。	・自立支援協議会事務局会議については、自立支援協議会部会の進捗報告の場となっており、課題共有や解決策に関する意見集約・検討が今後の課題である。	1 職員 2 所管課 3 その他 ( )	内容の見直しを行ったため。
7	28		第2章 7. 専門職ヒアリングにおける意見 (1)分野内の課題解決プロセスや分野横断的な事案への関わり方等の現状と課題 (ページ最下部 欄外注釈)	8050問題とは、「80代」の親が「50」代の子どもの生活を支える問題という。	8050問題とは、「80代」の親が「50」代の引きこもりの子どもの生活を支えることで、親への虐待や、子どもの経済的自立等の複合多問題にある世帯全体の状況を、制度の狭間の問題として表現した用語。	1 職員 2 所管課 3 その他 ( )	内容の見直しを行ったため。
8	39		第3章 めざす方向 2. 計画推進の基本的な視点 (視点のタイトル)	視点5 早期発見・早期対応による支援	視点5 事後的対応から積極的な体制づくりへ	1 職員 2 所管課 3 その他 ( )	内容の見直しを行ったため。
9	57		第4章 6. 総合相談支援体制の構築・強化 (図下部の説明)	※宝塚市におけるセーフティネットシステムと地域包括ケアシステムの連携 本市においては住民・専門職による地域課題の把握と解決を図る仕組みとして、官民協働で各エリアにおける会議体づくりを進めています。	※宝塚市におけるセーフティネットシステムと地域包括ケアシステムの連携 本市においては住民・専門職による地域課題の把握と解決を図る仕組みとして、官民協働で各エリアにおける会議体づくりを進めています。	1 職員 2 所管課 3 その他 ( )	誤字修正のため。
10	63		第5章 計画の推進 2. 本計画における重点的な取組 (表中、2行目の「内容」)	超高齢化社会におけるつながりの希薄化による社会的孤立の問題を防ぐために～	超高齢社会におけるつながりの希薄化による社会的孤立の問題を防ぐために～	1 職員 2 所管課 3 その他 ( )	誤字修正のため。